

医療被ばく低減施設認定までのプロセス

小川赤十字病院 放射線科 小林教浩

はじめに

小川赤十字病院は埼玉県の西部に位置する中規模の病院です。
開院は古く 1939 年に日本赤十字社埼玉県小川療院として設立され現在に至ります。
病床数は精神科病床 50 床を含み 302 床、標榜診療科は 19 科、1 日平均外来患者数は 610 人です。

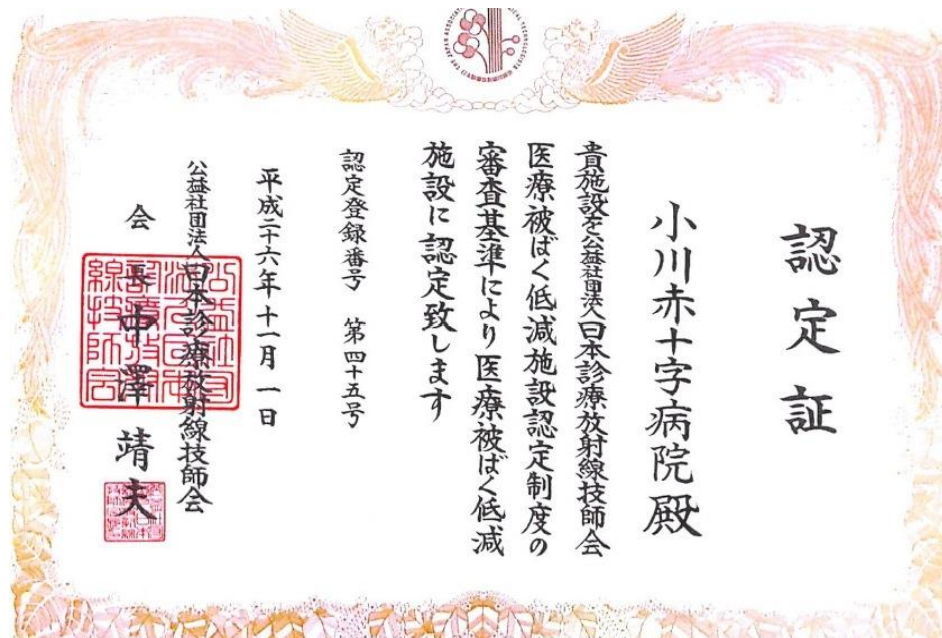
2015 年 12 月時点での小川赤十字病院放射線科の概要は以下の通りです。

常勤医師：1 名 非常勤医師：2 名 放射線科専従看護師：2 名 受付事務員：1 名

診療放射線技師：12 名（女性：4 名）

稼働機器は、一般撮影装置 4 台、MMG 装置 1 台、TV 装置 1 台 骨密度測定装置 1 台、
ポータブル装置 3 台、CT 装置 1 台、MRI 装置 2 台、RI 装置 1 台、血管撮影装置 1 台、
C アーム装置 2 台、PACS システム、その他です。

医療被ばく低減施設認定は 2014 年 11 月 1 日付で公益社団法人日本診療放射線技師会より認定書及びプレートを受けております。



キックオフ 2013 年 4 月

福島原発の事故以来、患者さんの被ばくへの意識は高まり、問い合わせが増えてきました。
当時、技師長でありました小川さんの「小林、お前が中心になり医療被ばく低減施設認定を取れ」の一

言により行動開始です。

プロジェクトチーム 2013年4月

この時点で、放射線管理士5名、放射線機器管理士4名が居り（すべて重複しており実際は5名です）このメンバーが中心になり作戦会議を重ねました。

まず始めに、日本診療放射線技師会誌に掲載されている、医療被ばく低減施設認定に必要な評価項目について診療放射線技師12人にアンケートを実施しました。

アンケート集計会議 2013年5月

アンケート集計により数々の課題が浮かび上がりました。

大きいところでは、検査ごとの臓器別被ばく線量、医療被ばくガイドラインとの比較、医療被ばく相談マニュアルの整備等です。他にも色々な課題が浮かび上がりますが、このアンケート実施により診療放射線技師12名が被ばく低減について関心を示してくれたことが、大きな収穫でした。

課題解決にむけて 2013年8月

医療被ばくガイドラインとの比較、医療被ばく相談マニュアル等は随時見直すことにし、臓器別被ばく線量については、被ばく線量算定ソフト購入の要望書を8月に提出、同月に日本診療放射線技師会主催の被ばく低減セミナーに1名が参加しました。

被ばく低減セミナー参加者の指導により被ばく線量算定ソフト（ImPACT/PCXMC）により臓器別被ばく線量の計算開始、各モダリティ担当者の協力により書類審査申し込みまでに計算終了を目指す。

日本診療放射線技師会事務局へ書類審査申し込み 2013年10月

11月技師会より自己評価調査票が届き全体の評価を診療放射線技師各々に依頼、各モダリティ別は、担当者に依頼し全体会議にて評価を検討、評価C以下は改善することとし評価NAはセミナー参加技師が被ばく低減セミナーの講師でもあるサーベイヤーに問い合わせることとする。

12月に自己評価調査票返送を目指し会議を終了する。

2014年1月より

日本診療放射線技師会からのメールによるアドバイスを頂く。

細部に至り適切で丁寧なアドバイスを頂き検討して返送することを繰り返す。

メールの回数は5回ほどになり、2月10日付けにて「医療被ばく低減施設認定」書面審査は「合格」となり院長あてに送付がありました。

サーベイヤー訪問審査依頼 2014年2月

日本診療技師会事務局より訪問審査推奨期間は3月から4月との連絡あり、2月21日事務長と連絡し院長の予定を確認、3月末日なら院長、事務長都合が良いとのことで安堵する。

実は、1月にセミナー参加技師が退職、3月で小川技師長が定年を迎えるので年度内の訪問審査は望むところでした。

3月末日の訪問審査を希望することを日本診療技師会事務局にファクスにて送信

ところが、3月末日は日本診療技師会関係の用事でサーベイヤ－3人が確保できず訪問できないとのことで、再度検討し6月17日で決定いたしました。

サーベイヤ－訪問 2014年6月17日

午後1時30分 サーベイヤ－訪問し院長、事務長に挨拶の後審査開始、資料審査及び施設の視察を17時30分まで行う。平日のこともあり当方診療放射線技師2名にて対応
改善項目を数点指摘されるも感触は悪くなく、結果は後日、日本診療放射線技師会の理事会にて決定されるとのことで訪問審査終了です。

最後に

全国の日赤病院の中でも小規模なのですが、小規模なだけに小回りが利き診療放射線技師のチームワークが遺憾なく発揮できたと思います。各技師の意外な一面を垣間見ることが出来ました。認定に合格したのは、もちろんうれしいことですが、みんなが一つのことを目指したのが有意義な1年でした。医療被ばく低減施設認定を申し込んで、院長、事務長をはじめ多くの人にご協力を頂きましたことを感謝いたします。